

【SCP—910—JP】私の個性は「道路標識」だったのに

シンボル

## 【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

## 【あらすじ】

タイトルが全てです

ヒーローになりたいのに両親や民衆を大量虐殺しちゃつてたことが判明したときの気持ちを4000字以内で述べよ

SCPの軍事利用なんて大抵ろくなことにならないからね、しょうがないね(愉悦)

SCP Foundationはクリエイティブ・コモンズ表示—継承3.0ライセンス作品です(CC—BY—SA3.0)

<http://creativecommons.org/licenses/by>

| s  
a  
/ 3.  
0  
/ d  
e  
e  
d.  
j  
a

# 目次

事件記録	2
7	1
5	6
6	7
J	P
	1
1	1

# 事件記録271567JP-1

サイレンが鳴り響いていた。

災害現場を中継していたヘリコプターが何かに強襲され、為すすべもなく墜落していきく。

「う……………、あ?」

助けを求める子供の声が崩れたビルの下から聞こえてくる。

救出に秀でたヒーローは真つ先に捕食され、即座に同僚をその場に呼び寄せた。青年の声、捕食。

叫び声を響き渡らせながら白い怪物が包囲網を突破し、都心を目掛けて侵攻していく。憎悪、危険察知。平和の象徴の必殺技が炸裂する。再生。連鎖。捕食の連鎖。怪物の目撃者は全国に広がった。変声、誘引、老人の声。警戒から外れた彫刻がすべてを捻り殺す。赤い皮膚の獣が、群れが、愚かにも呼び寄せられたヒーローを喰らう。それを目の当たりにした人間は、被災者の救出を諦めた。再生、炸裂、再生。耳だらけの死体。死体。黒死病。無防備な民衆に白い魔の手が走り寄る。粘液、腐敗。腐食。全身がひび割れた犠牲者が異次元に引きずり込まれた。子供たちの泣き声。それでもと向かって

行つた英雄は、無惨にも喰ひ殺された。ペスト治療。徘徊する死体の群れ。紅星たる。中継、撃墜、認識災害。既に、目撃者は億を超えていた。

「あ、……ひろ……」

死体。偶然にもむてきのかたなを手にした英雄は、個性も使わず消し飛んだ。補助標識。オブジェクト。突如として激戦地のご真ん中に出現した、どこにでもあるただの椅子。星眼たる。あかしけ。警告、警戒、変貌。象徴が爬虫類を消し飛ばす。人々。再生、再生。破壊不能な変成岩。蘇生した戦闘兵器は殺戮を繰り返し、象徴の喉元に原始的凶器を振り下ろす。人々。何でもなかったパイプ椅子が、ついに正体を現した。警戒、上乗せ、高速移動。胎児、愛くるしい熊の人形だ。銀の弾丸はここにはない。爆発音、視線誘引、彫刻。人々は恐怖し、恐怖達は真の恐怖を学んだ。瞬間移動、再生、蘇生、憎悪、擬態、咆哮、巨軀、捕食。人々人々、人々人々人々人々人々。情報災害。緋を司る神鳥が現実世界に君臨する。再生、蘇生、再生、蘇生。未来あるヒーローの心臓が引き抜かれる。影が、溶ける。死体。死体。死体。

死体。

粘性を持った、緑色の

「……。ま、しろ……ごめん、ね」

「だめな、おかあさんで……」

混乱は世界中に広がった。

悪意の奔流は、たった一本の標識から。

オールライトでも敵わないかもしれないと、民衆に戦慄を抱かせた化け物はその通りの力を得た。

幼児の死体を震源に、この世のものとは思えない悪夢が地平線を侵食した。

「だけ、ど……それでも、わたしっ が……」

。

。

。

小さな破砕音があつた。

飛び散る火花に、薄い金属がひしやげる音。

当該地域。民間人生存者1名。

名を、消輝<sup>けてるましろ</sup>守白。

彼はついで、ヒーローになることはなかった。